

2006年12月17日、京都にて、グアテマラのサン・マルコス県で活動されている伊藤照子シスターを迎えて、話しを聞く会を開催しました。

そこでの伊藤さんの話をまとめました。

「グアテマラのマヤ女性たちのために」

伊藤さんはカトリックのメリノール女子修道会に所属しており、フィリピンの修練院で一年間学んだ後、東アフリカのタンザニアに4年間派遣されました。そこで高校の数学教師として、最初のミッションの仕事をした後、ニューヨークのメリノール会の本部で仕事をしていました。

その後日本に戻って、山谷や釜が崎でアルコール依存問題からの回復に関わる仕事に10年ほど携わっていましたが、再び米国の本部に戻り、若いシスターを養成する仕事につきました。1995年、新しいところに挑戦するのもこれが最後だろうとグアテマラに行かれました。

サン・マルコスですと、女性との関わりということで10年間仕事を続けています。サン・マルコス県とカトリック教会のサン・マルコス教区は同一範囲で、その中の小教区をつかって仕事をしています。メキシコと隣接しているサン・マルコス県は高地、中間地、低地の三つに分けることができますが、それぞれの場所で気候や生活様式、そして仕事のやり方も異なっています。

私は先住民の人たちのいる高地と中間地で、メリノール会のもう一人のシスターと一緒に仕事をしています。サンマルコスの司教様は、女性の問題に取り組まない限り変化はない、ということをして12～13年ほど前から掲げておられたのですが、手をつける人がおらず、私たちが最初に始めました。現在は私たち二人と、低地部を担当する2人のシスターに加えて、グアテマラ人の女性が5人一緒に仕事をしています。

これからはグアテマラの人たちがやってくれるように、将来のワーカーを育てていかないと考えています。まだまだ先住民の人たちには教育がいていけませんので、地域でリーダーシップをとれる人は増えてきていますが、県レベルで活動してくれる人はまだ少ないのです。また専門的に仕事に携わってもらう必要がありますので、給料がないとやっていけませんので、給料は私たちが見つけてくるしかありません。

私たちがやってきたことはグループを作ること。教会に来る人たちに対して、先住民の価値観にある共同体の意識を少しずつ強めながら、勉強会や、子どもの教育について考える会を開いています。グループで活動することにいかに力があるか、ということを実感してもらうための勉強会です。

ある地区で、欠かさず出てきてくれる女性は8時間かけて歩いて出てきてくれます。前の日に出て、勉強会に参加して、もう一泊して自分の村に戻っていくのです。雨期はもっと大変。また彼女は書くことができないから小学校3年か4年かな、の子どもを連れてきて、書いてもらっています。

コミュニティーから1人か2人参加して、内容を持って帰ってもらって、また村でやってもらいます。以前は勉強してそれでおしまいたったのが、分かち合いたいという思いが強まり、またそれが実際にできるようになってきました。

また新聞もなく、読むものがありませんから、勉強会の資料も大切に持って帰ってくれます。それで近所の読める人に読んでもらって・・・そういう意気込みが増えてきています。

10年たってやっと成果といえますか、女性たちの中で開発プロジェクトの中でリーダーとして動ける人が育ってきた出てきました。最初はグループのリーダーを育てればというぐらいで考えていましたが、その人たちが飲み水を引くプロジェクトや道路を整備するプロジェクトとか、野菜畑を作るとか、自分たちの生活に密着した、必要度の高いプロジェクトなどを自分たちでやっていけるようなところにまで育ててきてくれています。

勉強会をやっている私たちとしては、(他に引っ張られて)リーダーが次々とどこかへ行っちゃうという形ですが、それがあある意味、私たちの目的だし・・・自分たちが何かをやっていけるような力がつくという、そういう経験を踏んでもらうような場所を私たちが作って、提供していくことをやっています。

最初はやはり、教会の方も、何で女性だけ集めるんだっていうような反対の声もありましたし、男性も、女性たちを集めて教育するという事で脅かされるといいますか、もうトルティージャも作ってもらえなくなるのか、という心配もしたり、でも、グループの中には、女性たちの立場がいかに苦しいかというのを理解してくださって、一緒に出てくる男性もいます。奥さんが病気でこれないから、と旦那さんが出てきたり・・・

ただ「だれその奥さん」というだけではなく、一人の人間として育てて欲しいという思いで、女性たちだけが集まることで、その中で自分で発言できるといいますか、そういう場を作ってあげること。それは自分たちだけでもできることなのですが、私たちがでていくことで、少し後押しの力になります。その中で少しずついろんなテーマで勉強会をしていきたいと思っています。

カトリックだから神様の話、聖書の話しかとも思われるのですが、カトリック教会自体も女性差別をしてきたのです。キリスト教の神様は男の神様で、すごく厳しい神で・・・その中でみんなが教育されてきたわけですから。それに反してマヤ文化の持っている神意識は父・母の神意識なのです。それを教会に来て祈りに集まる人の中で「マヤの価値観はこうだったけど」という「過去形」にしないで、それを生かしていけるような環境というかグループをつくること。外国の者がマヤの歴史について、その歴史を生きてきた人たちと話しあうということになるのですが、私たちには文献に接する機会があるということから、申し訳ないと思いつながら、マヤの文化とはどういうものであったかという話しをしたり・・・カトリック教会、キリスト教も見直して行かなくてはいけない部分もあります。マヤ先住民に人たちと関わりながら見直し、取り込んでいくこと。聖書についても、これを女性の視点からどう読んだらいいのかという読み直しを勉強したり、これまで教会の中では話されてこなかった女性の話などを行っています。例えば奇跡の話などでも、女性たちは数える対象にすらされていない、ということもあります。

マチスモにもカトリックの男性優先が影響していると思います。価値観として持っている西洋文化やそこから発展した科学にも男性優位という価値観、男性的価値、強さが強調されています。それがキリスト教の教えの中で強調されて、マヤ文化の中の母性的、父性的なものが間違っているとされてきたのです。教会に行っている先住民の人たちが、先住民のマヤ文化を見下げているともいえます。

例えばマリンバも教会ではつかってはいけないといわれてきたのですが、今になってやっとマリンバを使えるようになってきたのです。先住民の持っている文化を捨てちゃえ、キリスト教に改宗するというとはそう言うことも含めたものだったのです。

< 鉱山開発 >

鉱山採掘がはじまって、こんどはそれに加えてウラニウムがあるということで、サンマルコス町のすぐそばにもあるらしいということで、大変なことにつながる気がしています。でも鉱山は外国の会社が99%の利益を持っていきます。

鉱山会社が、そこに住んでいる人には荒れ地で、トウモロコシもできない土地を巨額なお金で買い上げに来ています。そう言うところでエコロジーがどうこういう難しさ、ものすごい勢いで土地が買い上げられ、山はだんだん消えていきますし、水はやっぱり汚染されていきます。

< 移民 >

メキシコを経てアメリカに移民する人があとを立ちません。みんな行きますよ、あの人いった、あの人いった、って。

入国して、仕事をして、お金を送ってくるんです。またアメリカですばらしい家を見つけて、写真を取り、それと同じようなのをブロックで真似た家を作っています。中は何も揃っていないけど、外見だけ真似た家があちこちに建っています。

出稼ぎで、父親のいない家族が多くなっています。また米国で新しい家庭をつくってしまうとか、そういう点で女性が強くなって行かなくてはならないという状況があります。

出たっきりが多いですね。再入国が厳しくなれば更にそうなるでしょう。また借金をして出て行きますので、厳しいですね。

教区としては、一つは、サン・マルコスの司教様が米国のデラウェア州にサン・マルコスからの移民が多いということで、その司教様と連帯をとって、姉妹県というような形で関係を育てていこうとしています。現地にいる移民の人権も擁護を支援していこうとしています。

グアテマラにいる人には向こうの様子を知ってもらうことを行っています。健康でけがもせず仕事ができる間はいいのですが、病気やけがをすると、一番難しい。保険もないし、何もできない。で、何がグアテマラの中でできるか、そういう方向にすこしずついけないか、やはり若い将来性のある労働力が出て行くわけだから、それを止められないかと考えています。

また国境に近いということで、メキシコ国境の町テクン・ウマンに移民者のためのセンターをもうけています。そこはエル・サルバドルやホンジュラスなどから北を目指す人が滞留する場所なので、そこで中米からの移民者の援助をしています。またアメリカから強制送還された人たちのたまり場にもなっていますので、そうした人たちをお世話するという形で。

移民は人権の一つ。国境を越えた移動も自由であるべきだという基本に謳ってはいますが、難しいですね。

< 治安 >

治安は内戦の時代よりも悪くなっています。内戦が終わって、兵力を縮小しましたものの、職もなく、民間のガードマンになっている場合が多いです。警察よりもそうした武器をもったガードマンの方が多いです。彼らは武器を持って、私有地や私有財産を守るためということで、問題があるとなれば殺して解決するということが多いです。兵器がまだ至る所にあります。

もう一つは麻薬関係の問題が大きくなっています。麻薬関係にも武器がつきものだし。